

種子島家第 29 代当主が鉄炮鍛冶屋敷を訪問されます

日本への鉄炮伝来に大きな役割を果たした種子島^{ときたか}時堯の子孫で、第 29 代当主の種子島^{とまくに}時邦様が、日本で唯一残る江戸時代の鉄炮鍛冶の作業場兼住居である鉄炮鍛冶屋敷（町家歴史館井上関右衛門家住宅）を訪問されます。当日は、種子島一市二町の首長、議長も同行され、井上関右衛門家当主と対面されます。

1 日 時 令和 6 年 10 月 20 日（日）午前 9 時 45 分～午前 10 時 30 分

2 場 所 鉄炮鍛冶屋敷（堺市堺区北旅籠町西 1 丁 3-22）

3 訪問者	種子島家	第 29 代当主	種子島 時邦 様
	西之表市	副市長	大平 和男 様
		議長	川村 孝則 様
	中種子町	副町長	阿世知 文秋 様
		議長	迫田 秀三 様
	南種子町	町長	小園 裕康 様
		議長	塩釜 俊朗 様
			及び関係者の皆様

4 種子島と堺の関係

天文 12 年（1543）、種子島の領主、種子島時堯は、島に漂着したポルトガル人が所持していた鉄炮二挺を購入して模作させました。これが日本への鉄炮の伝来だと伝えられています。

泉州堺の橋屋又三郎は、いちはやく種子島で鉄炮の製造技術と炮術を習得し、紀州根来の津田監物も種子島から銃を持ち帰り、それを堺の芝辻清右衛門が模作したと伝えられています。

その後、今井宗久などの堺商人は職人たちを組織し、鉄炮の大量生産に成功した結果、堺は日本でも有数の鉄炮生産地となりました。

井上関右衛門家は江戸時代に入ってから堺に定着した鉄炮鍛冶ですが、江戸後期には堺でも有数の鉄炮鍛冶として成長し、種子島から伝わり、堺で花開いた鉄炮製造の歴史を最後まで守り伝えました。

問
い
合
わ
せ
先

担 当 課：文化観光局 歴史遺産活用部 文化財課
電 話：072-228-7198
フ ァ ッ ク ス：072-228-7228